

応募者である冬師牧野農業協同組合の三浦吉松会長、自然観察ニカホの会や鳥海山・飛鳥ジオパークガイドの会の活動で地域に関わりのある茂野正信さんと（一社）鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会の長船裕紀研究員の3人による対談です。



暮らしを支えてきた草原を次の世代へ ～鳥海山のダイナミックな歴史の上で 生活する私たちにできること～

冬師湿原は私たちの暮らしを支え豊かにしてくれました（写真①初秋の冬師湿原②草原に生息する野鳥③草原で生息する昆虫④湿原でジュンサイを収穫⑤春に行われる野焼き）



3頭飼っている家庭がほとんどでした。冬季以外は放牧し、冬期間の餌のために朝早くから草刈りをし乾燥させるなど一日の多くの時間を家畜のために費やしました。家畜の排泄物は田畑の肥料となり家畜の飼育が生活に密接に関わっていました。その頃の冬師湿原の様子は忘れられません。その後、農機具が機械化され家畜の時代ではなくなるまでそうした生活は続いてきました。冬師湿原は過去の鳥海山の山体崩壊により出来た地であり、恩恵を受けたありがたい地だと思っています。

長 ありがとうございます。それは、自然観察ニカホの会の茂野さんから冬師湿原の魅力やこの地特有の動植物について伺います。

茂 にかほ市自然環境保護指導員の活動として、月2回程度定期的に確認しています。ここでは、管理されている草原でないと維持していくことが困難な植物、林になつてしまえば絶滅してしまう昆虫などが残っています。湿地帯にいる植物の植生もあり、いつ来ても新しい発見があります。

自然観察ニカホの会などで開催する自然観察会の際は、地元の方々がこの草原を維持・管理されている事を説明していますが、参加者の皆さんは大いに感激しています。著名な写真家もよく来ています。広大な面積を維持してきた草原があるから映

広い草原を背景に対談（右から三浦さん、茂野さん、長船さん）



える鳥海山。所々にハンノキの木が生えていて、アフリカのサバンナみたいだという声も聞きます。訪れるのを楽しみにしている方も多く、ずっと残していきたい場所です。

長 2人には見慣れた光景だと思いますが、農業において家畜の時代が終わり、機械化された現代でも野焼きや草刈りなどを行い維持しているというモチベーションや気持ちはどこからくるのでしょうか。

三 草原は1年放置すると手が付けられない状態になります。農業用水としてのため池もあり、ここで生きていくためには休まないで野焼きや草刈りをしていく必要があります。野焼き後に生えるワラビを楽しみに

地域外から訪れる方々やため池に映る鳥海山を目当てに県外から訪れるカメラマンもいます。住んでいる私達には見慣れた景色ですが、震え上がるほど素晴らしいと言われることがあります。こういった方々のためにも絶対に絶やすことのできない事であり、後に続く若い方々もその思いをもって守り続けてくれると思います。

長 約2500年前の大規模な山体崩壊という鳥海山のダイナミックな活動の歴史で作られた場所、その上に生活があります。さらに、全国から写真家が集まる場所、山菜が採れる場所を作ってきました。当協議会としても保全に関わる場所であり、ジオパーク的なツアー作りや野焼きを含む維持管理に関わっていただけるのが理想だと思っています。

茂 私も鳥海山・飛鳥ジオパークガイドの会の一員として、既に草刈りなどの作業に加わらせていただいています。冬師湿原は散策にも適した場所です。ピクニックもできると思いますが、そういった場所の管理の補助など、自分たちができることを見つけたいと思っています。

三 鳥海山・飛鳥ジオパークガイドの皆さんには、昨年度から草刈りや野焼きの際の補助など関わってもらっています。地域内での異論の声も聞きませし、一緒に作業してもらえるのは良いことだと思っています。

長 このたび、冬師湿原が「未来に残したい草原の里100選」に選定されました。

草原と定義される場所、つまり地域の方が生活のため利用する場として管理し維持されてきた所は少なくなってきました。現在では、国土の1%まで激減したと言われていますが、ここ冬師湿原には広大に残っています。私が冬師湿原の野焼きの存在を知ったのは8年前前になります。地域住民が野焼き等の活動を通じて草原を次世代に残していくといった営みが行われている事を知り驚いたことを記憶しています。こういった活動は、「人と自然の関わりの中、「草原の里」で培われてきた知識や技術、人々の思いを共有し、次世代に受け継ぐ」という100選の募集要項にぴったりであり、地域の皆さんにこの制度を紹介させていただきます。

そこで三浦会長には、100選を紹介された際の気持ちなどを伺います。

三 100選についての紹介を受けた際、果たしてこの地域が相応しい価値があるのか、既に選定されている地域と比較してそこに並ぶことができるのかは半信半疑でした。

振り返ると物心がついた時から、冬師湿原は身近な場所でした。当時は37から38世帯があり、農業を営んでいなくても馬や牛などの家畜を2、3頭飼っている家庭がほとんどでした。冬季以外は放牧し、冬期間の餌のために朝早くから草刈りをし乾燥させるなど一日の多くの時間を家畜のために費やしました。家畜の排泄物は田畑の肥料となり家畜の飼育が生活に密接に関わっていました。その頃の冬師湿原の様子は忘れられません。その後、農機具が機械化され家畜の時代ではなくなるまでそうした生活は続いてきました。冬師湿原は過去の鳥海山の山体崩壊により出来た地であり、恩恵を受けたありがたい地だと思っています。

長 この地域の皆さんは、最大限の恵みを湿原から得て、野焼きなどの作業から循環型の社会をずっと築いてきました。こういった場所は、教育の場にも相応しいと思います。

これからも持続可能な社会を作ることや未来に引き継いでいくことなど、今ある地域の宝を未来に引き継いでいくための仕組み作りを一緒に考えていきたいと思っています。

クラウドファンディング crowdfunding

選ばれた草原の里の素晴らしさを広く紹介するための書籍『未来に残したい日本の草原2023』を発行することを目的にクラウドファンディングを実施しています。応援よろしくお願いします。

▼クラウドファンディングのサイトはコチラ▼
<https://camp-fire.jp/projects/view/682753>



書籍に掲載される冬師湿原のページ



QRコードでサイトにアクセス!